

〈実践報告〉

保育士養成課程における ESP の 有効性の考察

——学習者の動機づけ観点から——

今 村 梨 沙

Abstract

Interpretations of ESP (English for Specific Purposes) tend to be vague (Terauchi, 2012). Orr (2012) points out that ESP is one of language educations to help English learners accomplish their specific purposes by tasks. In the case of students on an Early Childhood Education Course, singing English songs for children is able to motivate to learn English (Kareira matsuzaki, 2009). This study explores an effectiveness of ESP on an Early Childhood Education Course. Research questions were: (1) How did students feel to sing English songs for children? (2) What kinds of characteristics did songs which they chose have? (3) What type of English class do they require? As a result, they enjoyed singing English songs for children. On the other hand, students were eager to learn general English. It is valuable for them to take a class which English through an ESP approach merged with general English.

1. はじめに

日本の英語教育における ESP の解釈は、個人に留まらず教育組織のレベルで異なり、曖昧になる傾向がある (寺内, 2010)。ESP とは、English for Specific Purposes の頭字語であり、日本語訳では「特定の目的のための英語」もしくは「専門英語教育」とされるのが一般的である。Orr (2002) は、ESP を学習者が特定の目的を達成するために特定のタスクを効果的に実践できるよう手助けする言語教育として捉えることができると指摘している。

保育士養成課程における ESP の一つ的手段として、授業中に子ども用の英語の歌を歌う活動を挙げることができる（カレイラ松崎，2009）。2011年より小学5、6年生を対象に、週1回・45分・通年35回の外国語活動（英語）が必須（文部科学省）とされて以降、今後はますます小学校就学前教育の幼稚園や保育所において英語教育が推進されることが予測できる。現在、外国人講師が子どもたちに英語を教えていることが多いが、英語の歌を使った活動であれば、日本人の保育士や幼稚園教諭でもオーディオやインターネットを使用して指導することが可能である。保育士養成課程における学生にとっての ESP を Orr (2002) の ESP 定義に沿って考えると、「特定の目的」は「子どもたちに英語を教えること」であり、「特定のタスク」は「英語の歌を歌うこと」に置き換えることができる。「英語の歌を歌う」という ESP 的要素を帯びた授業を受けることで、学生は将来を見通した学習ができるので英語学習に対する動機を高める可能性が示唆されている（加茂・藤原，2013）。

ESP は学習者の動機づけを高めるという利点を挙げることができる。Gardner (1985) は、学習者の動機を統合的動機 (integrative motivation) と道具的動機 (instrumental motivation) の2種に分類した。統合的動機とは、目標言語やその言語を話すコミュニティのメンバーと親しくなりたいという気持ちから言語を学ぶというものである。一方、道具的動機は、目標言語を学ぶことによって、良い成績を取ることやよりよい職業へ就きたい気持ちが学習の要因となっていることである。こうした動機づけはあらかじめ存在するものではなく、作り出すものだとして Dörnyei (2001) は指摘した。Dörnyei (2001) は、動機づけを産み出すためには、語学学習の教室が楽しい雰囲気であり、学習者と教師の関係が良好で、良き学習者の仲間がいることを必要条件とした。

本研究は、筆者が行った保育士養成課程の「英語の歌を歌う」という ESP 的要素を取り入れた英語の授業実践報告を行い、保育士養成課程における ESP アプローチを取り入れた授業の有効性を検証することを目的とする。

2. 先行研究

カレイラ松崎 (2009) は、保育士養成課程の英語の授業において、ポートフォリオ学習を取り入れ、子ども用の英語の歌を歌う活動を行い、英語で連絡帳を書くという ESP 的アプローチを実践し、その有効性を報告した。

加茂・藤原 (2013) は、カレイラ松崎 (2009) の追跡調査を行い、質問紙調査を行った。その結果、保育専攻の学生に高等学校までの英語の授業を脱出して、コミュニケーションかつプラクティカルな授業を行う必要性を報告した。また、教師側がクラスルームイングリッシュや日常的な表現を交えて、英語で授業を行う必要性を示した。

英語教師と英語教育の関連性については、様々な智見がある。Dörnyei and Csizer (1998) は、ハンガリーの英語教師200名を対象に質問紙調査を行い、英語学習動機づけに有効だと思われる事柄を10項目挙げ、重要認識順位を示した (表1-1)。また、Cheng and Dörnyei (2007) は、台湾において387名の英語教師を対象に同様の調査を行い、有効な英語学習動機づけ方略を重要認識順位にして10項目提示した (表1-2)。水野 (2014) は、

表1-1 Dörnyei and Csizer (1998) の
英語学習動機づけ方略

重要認識順位	
1	教師が適切な行動をとる
2	教室を快適な空間にする
3	活動を適切に指示する
4	学習者とよい関係を築く
5	学習者の言語に対する自信を高める
6	授業を楽しく行う
7	学習者の自律を高める
8	学習過程を個人固有のものにする
9	学習者の目的意識を高める
10	学習者を英語関連価値に親しませる

表1-2 Dörnyei and Csizer (2007) の
英語学習動機づけ方略

重要認識順位	
1	教師が適切な行動をとる
2	学習者の努力を認め、成功を祝う
3	学習者の自信を高める
4	教室を快適な空間にする
5	活動を適切に指示する
6	学習者の目的意識を高める
7	タスクを刺激的にする
8	学習者を英語関連価値に親しませる
9	グループの結束と規律を高める
10	学習者の自律を高める

Dörnyei and Csizer (1998) と Cheng and Dörnyei (2007) の研究を比較して、動機づけの観点から考察した。その結果、教師の役割は学生の良きモデルとなり、不安のない楽しい雰囲気クラスをつくり、学生に面白いと思わせる授業を実践するという3点だと提示した。さらに、コミュニケーション活動を取り入れたタスクを学生に課すことで、学生の学習意欲向上の可能性を示唆した。

3. 調 査

3.1 調査の目的

本調査の目的は、ESP 的アプローチを取り入れた保育士養成課程の英語の授業に対する学生の反応を探り、受講者である英語学習者の動機づけを明らかにすることである。

Research Question (RQ) として、以下の3点を設定する。

RQ1：保育士養成課程において、子ども向けの英語の歌を学習することに対して、学生はどのように感じているか。

RQ2：学生にとって、授業で印象に残った英語の歌の特徴はどのようなものであるか。

RQ3：保育士養成課程の学生は、どのような英語の授業を望んでいるか。

3.2 調査協力者および授業内容

調査協力者は、2014年4月から7月まで関西の私立短期大学で子ども向けの英語の歌を学習するという ESP 的要素を取り入れた英語の授業を必修受講した保育士養成課程の1年生45名であった。授業は、週2回・1回90分・全30回であった。使用する教科書は *Children's Garden* (赤松, 2012) で、子ども向けの英語の歌や手遊び唄、子どもたちに声かけとして使える英語表現を学習できるように構成されていた。子どもたちに使える英語表現の中には、“Let's get changed.” “Go to sleep.” “It's snack time.” などが練習問題に

あった。教科書に掲載されていない有名な子ども向けの英語の歌（If You're Happy、We Wish A Merry Christmas など）を紹介するために、補助プリントも用いた。また、教科書のスキットで使用されている文法の理解を円滑にするため、中学校と高等学校で学習する英単語や英語表現を復習する補助プリントも使用した。教員はクラスルームイングリッシュを多用した。クラスルームイングリッシュとは、授業開始時のあいさつ、授業中の指示、質問、依頼、激励などで使用される英語表現のことである。児童・生徒のリスニング能力を飛躍的に向上させるというものではなく、外国語の授業において教室の雰囲気づくりをするものとして使われることが多い。多用することで、児童・生徒が教師の英語を聞こうとする態度を引き出す手段ともなる。筆者は、授業開始時に“Good afternoon. How is the weather today?”など尋ね、質問を英語で行うこともした。学生が上手に音読した後や正解が出た場合は、“Very good.”や“Perfect.”など激励の言葉を多用し、学生に子どもたちに対して使用するとよいということも教えた。全30回の授業の中で最後の5回は、学生の個人発表の時間とした。個人発表の内容は、各学生が保育士になった時に英語の授業を任されたと仮定して、英語で書かれた歌や絵本を使用し、どのような授業を展開するのか説明し実践するというものであった。模擬授業の形式ではないが、手遊び唄や振り付けのある英語の歌を選択した場合は、発表者が歌いながら振り付けをして、聞いている学生も一緒に振り付けをしながら歌うことを課題の一つとした。絵本を選択した学生は、聞き手の学生を子どもたちに見立てて、読み聞かせることを課題とした。発表で使用する教材は、本、CD、DVD、VHS、YouTube、そのほかインターネットサイトなどあらゆるものから取り出した歌やスキットを使用可能とした。ただし、必ずすべて英語で表示されているものに限定した。発表の持ち時間は、一人5分以上15分以内とした。

3.3 調査方法と調査内容

全30回の30回目の授業で、受講者全員を対象に、多肢選択形式と記述式で「振り返りシート」と題して、質問紙調査を行った（Appendix）。質問項目の1～4に関しては、カレイラ松崎（2009）の質問紙を参考に作成し、「5. 非常にそう思う」、「4. そう思う」、「3. どちらでもない」、「2. そう思わない」、「1. 全くそう思わない」の5件法で学生に回答させた。質問項目の5は、授業中に紹介した英語の歌の中で印象に残ったものを曲数の制限をせず記入させた。授業で紹介した英語の歌は、教科書と補助プリントを用いて教員が紹介したものと個人発表で学生が紹介したものとすべてを対象とした。また、印象に残った歌として挙げた理由も書くように口頭で指示した。質問項目6と7は、授業を受けて感じたことがあれば、任意で記入するよう指示した。

3.4 分析方法

質問紙の項目1～4に関しては、項目別に最大値、最小値、平均値、標準偏差を算出した。項目5については、学生が挙げたすべての歌を書き出し、それぞれの歌に対して何人の学生が選択したのか調べた。また、選ばれた歌を教員が講義中で紹介した歌と学生が発表内で紹介した歌だとわかるようにした。項目6と7に関しては、コメントすべてを箇条書きにし、類似したコメントは代表的な意見のみを抽出し、回答した人数を明らかにし、それぞれのコメントが全体の何%にあたるか算出した。一人の人物が複数のコメントを書いている場合も、コメントの一つとして計算した。

4. 調査結果

4.1 質問項目1～4の結果

項目1～4の結果を表2に示した。項目1「英語の歌を歌うことは楽しかった」は、4項目の設問の中で最も平均値が高かった。項目2「英語の歌

を歌うことはやりがいがあった」の平均値も項目1には劣るが高い。項目3「英語の歌を歌うことで英語に自信がついた」に関しては、4つの質問項目の中で一番平均値が低く、ばらつきも最も顕著に見受けられる。項目4「英語の歌を歌うことによって満足感を得ることができた」に関しては、項目1、2と同じく高い平均値が出た。

表2 項目1～4の平均値と標準偏差

	最大値	最小値	平均値	標準偏差
項目1	5	3	4.67	0.61
項目2	5	3	4.31	0.73
項目3	5	1	3.76	0.93
項目4	5	1	4.42	0.84

4.2 質問項目5の結果

項目5「授業でふれた英語の歌で印象に残った歌」の投票結果を票数の多い歌の順に挙げ、それぞれの歌に番号を付けて表3に示した。また、教員が授業で紹介した歌はタイトルの前に◆の印を付けた。無印の歌は、学生が発表で取り上げた歌である。教員が紹介した歌は34票で42%、学生が発表で紹介した歌は46票で58%と、後者の方がやや多い結果となった。

4.3 質問項目6と7の結果

任意の記述式の質問項目6「授業を受けてよかったと思う点」の記入者は、45名中40名（89%）と、多くのコメントが寄せられた。項目7「改善した方がよいと思う点」に関しては、45名中5名（11%）という結果であった。項目7の5名のコメント内容は、「プリントのサイズを揃えてほしい」や「提出物は事前に知らせてほしい」など、今回の調査目的と関連がないと判断できるものなので、本稿では考察の対象としない。

項目6「授業を受けてよかったと思う点」のコメントを回答数の多い順に並べて表4に示した。

表3 項目5で学生が選んだ英語の歌で印象に残った歌の投票結果

番号	学生が選んだ歌のタイトル	投票数	割合
1	◆Twinkle Twinkle Little Star	15	19%
2	BINGO	8	9%
3	Open Shut Them	6	7%
4	◆Humpty Dumpty	5	6%
5	Always With Me	5	6%
6	One Little Finger	4	5%
7	Do you like Broccoli Ice Cream ?	3	4%
8	I Can Sing A Rainbow	3	4%
9	◆Hickory Dickory Dock	3	4%
10	◆Old McDonald Had a Farm	3	4%
11	◆PAT-A-CAKE	3	4%
12	Under the Spreading Chestnut Tree	2	3%
13	Little Snowflake	2	3%
14	Tommy Thumb	2	3%
15	Wind the Bobbin Up	2	3%
16	What's this ?	2	3%
17	Grandfather's Clock	2	3%
18	◆We Wish A Merry Christmas	2	3%
19	Caterpillar Song	1	1%
20	◆HUSH-A-BYE-BABY	1	1%
21	MOTHER'S KNIVES AND FORKS	1	1%
22	◆If You're Happy	1	1%
23	◆Stapler	1	1%
24	Row Row Row Your Boat	1	1%
25	The Its Bitsy Spider	1	1%
26	Rock Paper Scissors	1	1%
計		79	100%

表4 質問項目6「授業を受けてよかったと思う点」調査結果

番号	コメント内容	回答数	割合
1	全体的に楽しかった	16	26%
2	沢山の英語の歌や手遊び唄を知ることができた	9	14%
3	保育現場で使えるような単語、英語表現、教材が学べた	8	13%
4	苦手な英語をわかりやすく教えてくれた	8	13%
5	先生が優しくかわいくて授業が受けやすかった	5	7%
6	高校卒業後は学べないと思っていた基礎的な英語から学べた	4	6%
7	プリントが楽しくできた	3	5%
8	英語力が少し上がった	2	3%
9	英語って楽しいと思えた	2	3%
10	先生の豆知識や詳しい情報が面白かった	1	2%
11	わかりやすい教科書で問題を解き覚えることができた	1	2%
12	使える英語を学ぶことができてよかった	1	2%
13	自分がどれだけ英語が出来るかということがわかった	1	2%
14	英語を今までと違う学び方で学習できた	1	2%
合計		62	100%

5. 考 察

5.1 「保育士養成課程において、子ども向けの英語の歌を学習することに対して、学生はどのように感じているか」に関する考察

ほとんどの学生が、英語の歌を歌うことは楽しく、やりがいがあり、満足感を得るものであり、英語に対する自信をつけるものだと感じていたことがわかった(表1)。しかし、自由記述式のコメントでは、英語の歌を学習することに関して言及した学生は、全体の14%(表4の2番)だけであった。子ども向けの英語の歌を歌うことで、クラスの雰囲気を和らげ、「全体的に楽しかった」(表4の1番)や学生がよかったと思う授業に繋がったのかも

しれない。しかし、教員が ESP アプローチと意識するほど、学生は英語の歌に注目していないことが読み取れる（表4）。

5.2 「学生が授業で印象に残った歌の特徴」に関する考察

学生の印象に残った歌は、全部で26曲あった。それらの歌の特徴は、2つあった。1つ目は、学生が選んだ歌の日本語版があるものはそれを事前に知っていたということであった。例えば、「Twinkle Twinkle Little Star」は日本語で「きらきら星」（赤松，2012）として学生に知られていたので、英語版を CD で流した際、口ずさむ学生が多くいた。メロディは変化しないので、自分の知っている歌の日本語を英語にするとどうなるか、という興味が印象深さに繋がったと考えられる。実際、「Always With Me」を選んだ理由として「親しみのあるスタジオジブリシリーズの歌が英語バージョンになっているのが興味深かった」と書いていた学生がいた。2つ目の特徴は、初めて聞く歌であっても、その歌に簡単な振り付けがついているか、もしくはその歌が手遊び唄であるということであった。選んだ理由に「振り付けがかわいかった」と書いていた学生がいた。

5.3 「保育士養成課程の学生は、どのような英語の授業を望んでいるか」に関する考察

学生は英語の歌を学習することを楽しんでた。しかし、質問紙の質問項目6「授業を受けてよかった点」で英語の歌以外のコメントを書いた学生が86%であったので、学生が英語の歌に特別な関心を持っていなかったといえる。「英語」に関するコメントをした学生が全体の33%（表4の4、8、9、11、12、13、14番）で、子どもに対して使える英語や英語の歌を学習することについてコメントを書いた学生は27%（表4の2、3番）だったので、基礎的な英語および教養としての英語を意識して授業を受けていた学生の方がやや多かったことがわかった。英語に対して苦手意識を持っていた数名の学

生が、質問紙の余白に、“Thank you very much!” や “English is very interesting!” と、英語で書いていた。このことは、学生が基礎的な英語を学ぶ楽しさを実感した結果だと言える。

また、全体の9%（表4の5、10番）の学生が、授業内容より教師に関する気持ちを記述している点が興味深い。Dörnyei and Csizer (1998)、Cheng and Dörnyei (2007) や水野 (2014) が指摘したように、教師の人格は学生の学習の動機づけとなるが、内面的な部分だけでなく、教師の外面的な部分、すなわち、外見の雰囲気や印象も同様であることも付記できるだろう。

6. 結論と今後の課題

本研究の結果、保育士養成課程の学生にとって、授業の中で子ども向けの英語の歌や手遊び唄を学ぶことが、英語学習の動機づけのひとつの可能性となりうることはわかった。しかし、基礎的な英語を復習し「教養としての英語」を学習したい学生も存在した。従って、保育士養成課程の英語の授業だという理由で、子ども向けの英語の歌や手遊び唄を多用する ESP アプローチは、学生の動機づけへ繋がる断言できない。クラスの雰囲気作りや授業に変化をもたらすために、英語の歌を歌うという ESP 的要素を取り入れることは大切である。ESP 的要素と教養としての英語をバランスよく融合させた授業を快適な学習空間において好感の持てる教師が実践することこそ、保育士養成課程の学生にとって学習意欲の持てる英語の授業だと言えよう。今後の課題として、保育士養成課程における全面的な ESP の実践の有効性を考えていきたい。

引用参考文献

- Cheng, H-Fu., & Dörnyei, Z (2007). The Use of motivational strategies in language instruction: The case of EFL teaching in Taiwan. *Innovation in Language Learning and Teaching*, 1, 153-174.
- Dörnyei, Z. (2001). *Motivational Strategies in the Language Classroom*. Cam-

bridge UP.

Dörnyei, Z. and Csizer, K. (1998). Ten commandments for motivating language Learners: Results of an empirical study. *Language Teaching Research*, 2, 203-229.

赤松直子 (2012). *Children's Garden*. 東京: 成美堂.

加茂葉子・藤原 愛 (2013). 『保育士養成課程の学生に対する英語学習に関する追跡調査: ESP (English for Specific Purpose) アプローチの視点から』育英短期大学研究紀要、30、81-94.

カレイラ松崎順子 (2009). 『保育士養成課程における英語教育の一考察——ESP 的アプローチを取り入れて——』Annual Report of the JACET-SIG on ESP、11、22-30.

水野知津子 (2014). 『英語教師に求められるもの——外国語学習方略の動機付け観点からの考察——』香川高等専門学校研究紀要、5、89-98.

寺内 一・山内ひさ子・野口ジュディー・笹島 茂 編 (2012). 『21 世紀の ESP——新しい ESP 理論の構築と実践』東京: 大修館書店.

Appendix

振り返りシート（アンケート）

各項目について該当すると思う番号を1つ選び、○で囲んでください。

5 = 非常にそう思う 4 = そう思う 3 = どちらでもない
2 = そう思わない 1 = 全くそう思わない

- | | | | | | |
|------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 英語の歌を歌うことは楽しかった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2. 英語の歌を歌うことはやりがいがあった | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3. 英語の歌を歌うことで英語に自信がついた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4. 英語の歌を歌うことによって満足感を得ることができた | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
5. 教科書、プリント、発表でふれた英語の歌で、印象に残った歌を書いて下さい。
6. この授業を受けてよかったと思う点を書いて下さい。
7. この授業を受けて改善した方がよいと思う点を書いて下さい。